

平成23年度用

新版「小学社会」

教科書検討の 観点からみた特色

観点別・編集の特色



日本文教出版 株式会社
<http://www.nichibun-g.co.jp/>

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
 TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618
 大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
 TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171
 九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
 TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938
 東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
 TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261
 北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
 TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690

大阪書籍 「小学書写」
 「小学社会」 から
 「小学算数」

著作権譲渡を受けた教科書については、
**著作者、内容に関する基本的な
 考え方には変更なく、**
 今後も発行を継続して参ります。116 日文

平成23教 教科書検討の観点からみた特色

116 日文	教科書 記号・番号
3・4年上 社会307	3・4年下 社会308
5年上 社会507	5年下 社会508
6年上 社会607	6年下 社会608

CD22019

教科書の表紙には、従来よりも工夫された表面加工を施すなど、
 化学物質に過敏な児童に少しでもやさしいものに仕上げよう
 配慮をしています。

この冊子は、再生紙を使用し、大豆インキで印刷しています。



編集の基本方針

- 1 よりよい社会をめざして、
人や社会と関わり行動する子どもを育てる
- 2 社会科としての基礎・基本を習得させ、
自ら考え、表現する力を育てる
- 3 問題解決学習の展開の道筋を明らかにし、
子ども一人一人の主体的な追究を支援する



もくじ

観点別教材一覧表

人権の尊重・福祉	1
平和・国際理解	2
伝統・文化	3
情報	4
環境	5
健康・消費者	6
安全・防災	7

検討の観点と内容の特色

年間指導計画表

3・4年	16
5年	18
6年	20

○ 人権の尊重・福祉（法・きまりふくむ）

学年	単元名	内容	ねらい
3・4年	1 わたしたちの住んでいるところ	上 P.23 博士のアドバイス（点字地図）	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の具体的な事例を通して、人々の人権を守るための取り組みや、福祉向上のための活動に気づき、自分の生活とのかかわりについて考える。 ○地域の安全な生活の維持と向上をはかるために、法やきまりを守ることの大切さに気づく。 ○住みよい町をつくるための先人の働きや人々の願いに気づくとともに自分たちにできることを実行しようとする姿勢をもつ。
	2 暮らしをささえるまちではたらく人びと	上 P.67 「ハートビル法にんていけんちく物」であることをしめすマーク P.69 障害者のための駐車場	
	3 今にのこる昔とくらしのうつりかわり	上 P.126～127 子どものころのくらしを聞く P.128～129 たしかめよう	
	4 健康な暮らしをささえる	下 P.52～53 奈良市の水道のあゆみ	
	5 安全な暮らしを守る	下 P.86～87 交通事故をふせぐ取り組み P.91 わたしたちの交通安全のきまり P.92～93 海の安全はだれが守っているのだろうか？	
	6 地いきのはってんにつくした人々	下 P.96～108 よみがえらせよう、われらの広村 P.110 医学のはってんにつくした華岡青洲 P.111 産業のはってんにつくした大畑才蔵	
5年	1 日本の国土と人々のくらし	上 P.42～43 山のめぐみを生かして	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な事例を通して、働く人々や環境の問題に関心をもつとともに、自分たちの生活とのかかわりに気づき、どうすべきか考え、行動する姿勢をもつ。
	2 わたしたちの食生活と食料生産	上 P.68～69 米作りで心配なこと P.70 これからの米作り P.87 トラックの運転手さんのお話 P.102 これからの食料生産	
	3 工業の発達とわたしたちのくらし	下 P.21 人にやさしい自動車づくり P.34～35 働く人の問題 P.40 貿易をめぐる問題	
	4 わたしたちのくらしを支える情報	下 P.56～57 情報のはたらきと発信 P.66～69 情報をどのように使っていくとよいのか	
	5 国土の環境を守る	下 P.76～81 自然を取りもどすのに、どんな取り組みがおこなわれてきたのか P.82～85 公害からくらしを守るために、何をすることが必要なのか P.92 安心できるくらしを守るために	
6年	1 日本のあゆみ	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障害者の福祉など 下 P.4～9 人々の願いはどのように実現されるのか P.20～21 国の省庁とわたしたちのくらしとの関係は？ P.28～29 広がる基本的人権 P.33 バリアフリー社会をめざして 	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史学習を通して、それぞれの時代における人々のくらしの移り変わりや人権獲得の過程を知るとともに、自分たちの生活とのかかわりに気づく。 ○現在の政治の動きを、具体的な事例を通して知るとともに、日本国憲法の基本的人権の尊重と政治とのかかわりについて考える。 ○地方公共団体や国などが行っている社会保障や福祉の実態を理解し、それらの現状について、人権尊重の立場から考える。
	2 わたしたちのくらしと政治	<ul style="list-style-type: none"> ・部落史 上 P.47 龍安寺（京都市）の石庭 P.57 武士が支配する社会のしくみ P.72～73 それぞれの身分とくらし P.82 人体かいぼうを見学する杉田玄白や前野良沢たち P.90 洗染一揆 P.93 身分のちがひ P.109 山田孝野次郎のうったえ 	
	3 世界のなかの日本とわたしたち	<ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ民族の人権 上 P.63 江戸時代のアイヌ民族 P.93 北海道のアイヌ民族 下 P.29 アイヌ文化振興法 ・外国人の人権 上 P.104 柳宗悦 P.108 関東大震災 P.118 戦争で大きく変わった人々のくらし P.124 原爆による死者 P.125 第二次世界大戦でのおもな国・地域のぎせい者 P.132 戦後のおもな改革 下 P.28～29 広がる基本的人権 ・女性と人権 上 P.72～73 それぞれの身分とくらし P.75 久留米がすりと井上伝 P.103 与謝野晶子 P.107 最初の女子留学生－津田梅子 P.108 平塚らいてうのうったえ P.132 戦後のおもな改革 下 P.28～29 広がる基本的人権 	

○ 平和・国際理解

学年	単元名	内 容	ねらい
3・4年	1 わたしたちの住んでいるところ	上 P.22 まちで見つけた地図 P.43 観光案内所、さまざまな外国語で書かれた福岡の観光パンフレット P.50～51 わたしたちの市と韓国とのつながり	○自分たちの住む市町村、都道府県や生産・販売などの学習を通して、自分たちの暮らしが、人や物によって他の地域や外国とつながっていることに気づく。
	2 暮らしをささえるまちではたらく人びと	上 P.70 外国からきた野菜やくだもの P.71 野菜やくだもの産地 P.99 韓国の食べ物の明太子 P.106～107 原料のふるさを見つつけよう P.112～113 パナナのたび	
	3 今にのこる昔とくらしのうつりかわり	上 P.130～131 世界各地で昔から使われてきた道具 P.144 外国のさまざまな祭りや行事	
	4 健康な暮らしをささえる	下 P.58～59 水は買うもの？	
	7 わたしたちの住んでいる県	下 P.112～113 外国にうつり住んだ人々 P.152～155 世界に広がる人とのつながり P.156～158 世界とつながる工業や農業 P.160 わたしたちの県とつながりの深い国	
5年	1 日本の国土と人々のくらし	上 P.4～11 世界の国々と比べて、日本にはどんな特色があるのか P.18～19 どこがちがう？日本の川と外国の川 P.29 沖縄の軍用地 P.37スキー大会のようす P.50～51 世界の家のようす	○世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置、我が国の位置と領土を理解するとともに、日本の産業の現状と世界とのつながりを身近な事例をきっかけにして考える。 ○貿易問題や環境問題など、国際的な協力がなければ解決できない問題があることに気づく。
	2 わたしたちの食生活と食料生産	上 P.69 米の輸入問題 P.79 おもな国の1人あたりの水産物の年間消費量 P.88～89 200海里水域問題 P.95 マグロは食べられなくなるのかな？ P.96～102 これからの食料生産 P.104 フードマイレージってどんなこと？	
	3 工業の発達とわたしたちのくらし	下 P.15 見学した自動車会社の海外生産工場の分布 P.25 世界食、即席めん P.35 日本で働く外国から来た人 P.36～40 工業生産と運輸や貿易は、どのようにかかっているのか P.42～43 どれが石油からつくられている？ P.86～87 地球は、ほんとうにあたたかくなっているの？	
6年	1 日本のあゆみ	上 P.11 米作りがはじまったところ、日本に伝わった経路 P.16～17 大和朝廷と渡来人のかつやく P.19 博士のアドバイス P.22～23 遣隋(唐)使のかつやく P.28～29 世界につながる文化と鑑真 P.34～35 世界の文化遺産を守るために P.42～43 元と戦う P.46～47 今に残る室町文化 P.53 鉄砲 P.54 ポルトガル人が見た信長 P.55 キリスト教の伝来と信長 P.58 秀吉の朝鮮出兵 P.62～63 キリスト教の禁止と鎖国 P.64～65 鎖国のもとでの外国との交流 P.68～69 ポルトガル語が日本語に P.79 浮世絵 P.82～83 蘭学のはじまり P.86～89 黒船の来航と鎖国の終わり P.94～98 豊かで強い国をめざして P.100～105 条約改正と中国・ロシアとの戦い P.107 世界でかつやくする日本人々 P.111 ベリーのふるさとアメリカ P.112～125 アジア・太平洋に広がる戦争 P.127 ユダヤ人と日本の外交官のつながり P.128～141 新しい日本へのあゆみ	○歴史学習を通して、外国と日本とのつながりの移り変わりを理解する。 ○世界的な環境問題や国際紛争など、現在のさまざまな問題を解決するためには、国際理解・国際協力が大切であることに気づき、平和で豊かな国際社会を築いていくための日本の役割や、自分にできることについて考える。
	2 わたしたちのくらしと政治	下 P.10～11 災害の発生と政治のはたらき P.30～31 平和への願い	
	3 世界のなかの日本とわたしたち	下 P.36～53 日本とつながりの深い国々 P.56～57 海外旅行の計画をつくってみよう P.58～64 国連はどのようなはたらきをしているのか P.65～70 国際交流を通じた日本人の役割	

○ 伝統・文化

学年	単元名	内 容	ねらい	
3・4年	1 わたしたちの住んでいるところ	上 P.12～13 西コースのたんけん 上 P.44～45 古くからのこるたてももの	○自分たちの住む市町村に古くから残る建造物や、都道府県の伝統や文化を生かした事例を調べることにより、地域社会に対する誇りと愛情を育てる。 ○地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事を調べ、生活の安定と向上に対する地域の人々の願いや、それらを保存し継承していくための工夫や努力を考える。	
	2 暮らしをささえるまちではたらく人びと	上 P.77 博士のアドバイス(きょう土りょうり)		
	3 今にのこる昔とくらしのうつりかわり	上 P.116～129 昔の道具と人びとのくらし P.131 日本と外国の昔から使われてきた道具をくらべて考える P.132～143 昔からつたわる行事 P.144 外国のさまざまな祭りや行事		
	6 地いきのはってんにつくした人々	下 P.94～111 地いきのはってんにつくした人々		
	7 わたしたちの住んでいる県	下 P.126～131 備前焼づくりのさかんな地いき P.150～151 まだまだあるよ、伝統的な工業製品		
	1 日本の国土と人々のくらし	上 P.21 津海市(岐阜県)のようす(輪中) P.26～27 家づくりのくふう P.32 ゴーヤやもずく、ぶた肉などを使った沖縄料理 P.38～40 上勝町のようす(棚田) P.47 低地のくらし～輪中地帯～		○特色ある地域の人々のくらしのなかに、伝統的な建物や郷土料理などが今も残っていることや、工業の様子を調べることを通して、古くからのすぐれた技術が今も生かされていることに気づく。
	2 わたしたちの食生活と食料生産	上 P.55 米を使ったいろいろな郷土料理 P.70 米のキャンペーンのようす P.76～77 たな田 P.95 外国のすし店		
3 工業の発達とわたしたちのくらし	下 P.32 ゆるまないナットのしくみ(くさび)			
5 国土の環境を守る	下 P.72 伝統的な漁法 P.97 森林を育てる仕事			
1 日本のあゆみ	上 P.2～5 地域の歴史をさぐるう P.22 法隆寺 P.28 世界につながる文化と鑑真 P.30～33 貴族が日本風の文化を生み出す P.34～35 世界の文化遺産を守るために P.50～51 国宝は、どのような宝物なのか？ P.44～47 室町文化が生まれる P.65 唐子踊 P.75 久留米がすりと井上伝 P.78～83 町人文化と新しい学問 P.85 江戸時代のリサイクルは？ P.95～96 文明開化 P.107 世界でかつやくする日本人々	○人物の働きや代表的な文化遺産を調べ、自分たちの生活の歴史的背景や我が国の歴史や先人の働きについての理解と関心を深めるとともに、現代においても親しまれている文化や、国宝、重要文化財、世界遺産として登録され大切に保存・保護されている文化遺産に関心をもつ。 ○異なる文化や習慣を理解し、関心を深めるようにするとともに、文化を通して、世界の人々と互いに親善や交流を深めていることに気づく。		
3 世界のなかの日本とわたしたち	下 P.6 書道教室 P.23 国民の祝日 P.66～67 スポーツや文化を通じた交流			

○ 情報

学年	単元名	内容	ねらい
3・4年	1 わたしたちの住んでいるところ	上 P.19 地図のつくり方 P.22～23 まちにある地図をみつけよう P.48～49 ガイドブックにまとめる	○それぞれの学習内容に合った方法を用いて、情報の収集や整理を行うとともに、調査結果（学習の成果）をわかりやすく発信する工夫を行う。 ○人々の安全や健康を守るために、情報のやりとりによって、緊急事態に備える体制が整えられていることを理解する。
	2 暮らしをささえるまちではたらく人びと	上 P.54 買い物調べのしかた P.57 表への整理のしかた、ぼうグラフのつくり方 P.73 インターネットのりょう P.94 手紙を書く P.98 インタビューのしかた P.110～111 パンフレットにまとめる	
	3 今にのこる昔とくらしのうつりかわり	上 P.121 聞き取りのしかた P.123 キャッチコピーのつくり方 P.128～129 年表にまとめる P.134 発表のしかた P.142～143 紙しばいにまとめる	
	4 健康な暮らしをささえる	下 P.25 インタビューのしかた P.43 水道マップのつくり方	
	5 安全な暮らしを守る	下 P.64 インターネットの使い方 P.68～69 119番のしくみ P.84～85 110番 P.90～91 安全マップをつくる	
	6 地いきのはってんにつくした人々	下 P.103 ひかふる表のつくり方 P.108 紙しばいにまとめる	
	7 わたしたちの住んでいる県	下 P.148～149 すごろくをつくる	
5年	1 日本の国土と人々のくらし	上 P.23 図書館での調べ方、インターネットでの調べ方、手紙を使った調べ方 P.27 電子メールの使い方	○それぞれの学習内容に合った方法を用いて、情報の収集や整理を行うとともに、調査結果（学習の成果）をわかりやすく発信する工夫を行う。 ○身近な情報の入手方法について考えるとともに、ニュース番組を制作する人々の働きから、情報産業が担っている役割に気づく。 ○情報収集や情報発信をするときの注意点などを理解し、情報化社会で生きていくために必要な素養について考える。
	2 わたしたちの食生活と食料生産	上 P.71 カードにまとめる P.85 漁場や魚市場の情報を手に入れる P.100 輸入食品の問題を伝える新聞記事 P.101 バイオエタノールで走るバイクの新聞記事	
	3 工業の発達とわたしたちのくらし	下 P.17 部品の情報を入力する	
	4 わたしたちのくらしを支える情報	下 P.44～69 わたしたちのくらしを支える情報 P.58 カードにまとめる P.59 「ごうがい」って何？ P.70～71 コンビニの店長になったら何を売る？	
6年	1 日本のあゆみ	上 P.4 さまざまな調べ方 P.5 発表のしかた P.5 絵地図や年表にまとめる P.18, 101, 126 年表にまとめる P.33, 49, 84, 110, 142 図にまとめる P.66～67 歴史新聞にまとめる P.101 年表のつくり方 P.105 はるかさんのノート P.121 戦争中のくらしの調べ方	○それぞれの学習内容に合った方法を用いて、情報の収集や整理を行うとともに、調査結果（学習の成果）をわかりやすく発信する工夫を行う。 ○戦争体験者からの聞き取りや歴史新聞にまとめる活動など、歴史学習における情報の収集・整理能力を育てる。 ○国際化の進展のなかで、外国の人々の生活の様子や考え方などを調べ、国際理解・国際協力を進めていくためにも情報の収集・活用が有効であることに気づく。
	2 わたしたちのくらしと政治	下 P.16～17 インターネットの利用 P.18 関連図のつくり方 P.23 インターネットを利用した調べ方学習 P.32 図にまとめる	
	3 世界のなかの日本とわたしたち	下 P.36～37 さまざまな調べ方 P.54～55 表や地図にまとめる P.71 図にまとめる	

○ 環境

学年	単元名	内容	ねらい	
3・4年	2 暮らしをささえるまちではたらく人びと	上 P.67 リサイクルコーナー、レジぶくろをへらす取り組みにさんかしていることをしめすマーク	○ごみ処理やリサイクルの推進、限られた資源を大切に使用する工夫など、環境を守るために行われているさまざまな取り組みや活動を知る。 ○環境保護に立ち上がった先人や、自分たちの住んでいる都道府県での環境を守る活動を調べたり、自分たちにできる日常的な取り組みを考えたりすることを通して、環境を守っていかうとする意欲を育てる。	
	4 健康な暮らしをささえる	下 P.29 はるかさんの発表 P.32～33 リサイクルされたごみのゆくえ P.36～37 ごみをへらすための取り組み P.40～41 フリーマーケットって何だろう？ P.54～55 かざられた水を守るくふうや取り組み		
	6 地いきのはってんにつくした人々	下 P.109 かんきょうを守りぬいた南方熊楠		
	7 わたしたちの住んでいる県	下 P.134～137 町なみを守る運動 P.142～143 ゆたかな自然を生かす、お礼の手紙を書く P.146～147 ゆたかな自然を生かす人々		
	1 日本の国土と人々のくらし	上 P.33 自然があふない P.37 環境にやさしい農業 P.43 たな田を守る活動		○生産活動による公害や、開発による自然破壊、日常生活から出るごみや排水による環境汚染などの具体的な事例を通して、生活することが、環境を悪くすることにつながる実情に気づく。 ○環境保護のためのさまざまな活動に興味をもち、自分たちができることを考える。
	2 わたしたちの食生活と食料生産	上 P.66～67 消費者が求める米作り P.76～77 水田のはたらき P.87 トラックの運転手さんの話 P.91 赤潮 P.101 そうたさんのノート、はるかさんのノート P.104 フードマイレージってどんなこと？		
	3 工業の発達とわたしたちのくらし	下 P.22～23 環境にやさしい自動車づくり P.34～35 働く人の問題 P.42～43 どれが石油からつくられている？		
5年	5 国土の環境を守る	下 P.72～103 国土の環境を守る P.104 「こどもエコクラブ」って何？		
6年	1 日本のあゆみ	上 P.85 江戸時代のリサイクルは？ P.106 足尾銅毒事件 P.136～137 発展した日本の経済 P.140～141 国際社会のなかの日本	○環境と調和しながら生きてきた先人たちのさまざまな生活の工夫を理解するとともに、地球環境の現状について調べ、自分たちがどのようにしなければならぬのか考える。	
	2 わたしたちのくらしと政治	下 P.27 国民の基本的な権利カード P.28～29 広がる基本的な権利		
	3 世界のなかの日本とわたしたち	下 P.62～64 地球環境問題と国連のはたらき P.69 緑の地球ネットワーク P.72 エコプランを考えよう		

○ 健康・消費者

学年	単元名	内容	ねらい
3・4年	1 わたしたちの住んでいるところ	上 P.36～37 田や畑が多いところ	<ul style="list-style-type: none"> ○健全な食生活を実践する力をつけるために食に関する知識を身につける。 ○地域の人々の生産や販売に見られる仕事の工夫について調べるとともに、商品の品質や価格などを考えて店や商品を選んで購入している消費者の工夫に気づく。 ○地域の人々の生活にとって必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理が、人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役だっていることを考える。 ○県内の特色ある地域の人々の生活を調べるなかで、地域の自然を生かした農業が行われていることに気づき、暮らしを支える食に興味を深める。
	2 暮らしをささえるまちではたらく人びと	上 P.54～57 わたしたちはどこで買い物をしているのか P.64～65 はたらく人にインタビュー P.66 店長の柿塚さんの話 P.68～69 お客さんにアンケート P.72～73 いろいろな店をくらべてみると P.74～75 たしかめよう P.76～77 地産地消って何だろう？ P.78 給食で食べるいちご P.92～93 しゅうかくから店にならぶまで（バックづめ、形やきすのけんさ） P.102～103 明太子をつくる人たちの仕事 P.104 けんさをする佐藤さんの話 P.109 店の林さんの話 P.110～111 たしかめよう P.112～113 パナナのたび	
	3 今にのこる昔と暮らしのうつりかわり	上 P.124～125 ごはんをたく道具を調べる P.131 もちつきのようす	
	4 健康な暮らしをささえる	下 P.18～57 健康な暮らしをささえる	
	7 わたしたちの住んでいる県	下 P.138～139 ゆたかな自然を生かす人々 P.140～141 地形や気候を生かした農業 P.158 農業によるつながり	
5年	1 日本の国土と人々の暮らし	上 P.30～31 気候を生かした農業 P.40～41 土地を生かした農産物 P.42 山のめぐみを生かして P.46 土地を生かした農産物 P.66～67 消費者が求める米作り	<ul style="list-style-type: none"> ○さまざまな食料生産が、国民の食生活を支えていることに気づき、食に関する知識を身につける。 ○工業に従事している人々の、健康を守るためのきまりや取り組みに気づく。 ○医療に生かされる情報ネットワークが人々の健康を守るうえで大きなはたらきをしていることに気づく。 ○人々に有害な影響を及ぼす公害から国民の健康や生活環境を守るために、関係の諸機関をはじめ多くの人々のさまざまな努力により、公害の防止や生活環境の改善がはかられていることに気づく。
	2 わたしたちの食生活と食料生産	上 P.52～103 わたしたちの食生活と食料生産 P.95 マグロは食べられなくなるのかな？ P.104 フードマイレージってどんなこと？	
	3 工業の発達とわたしたちの暮らし	下 P.20 消費者に合わせた自動車づくり P.26～27 いろいろな工業製品 P.33 人の目をまもるめがね（ゴーグル）をつくる P.34～35 働く人の問題	
	4 わたしたちの暮らしを支える情報	下 P.53 コマーシャルの役わり P.54～55 テレビ番組とわたしたち P.62～64 医りように生かされる情報ネットワーク P.70～71 コンビニの店長になったら何を売る？	
	5 国土の環境を守る	下 P.82～83 さまざまな公害	
6年	1 日本のあゆみ	上 P.10～11 遺跡を調べる P.90 打ちこわしのようす P.120 戦争と子どもや女性たち P.130～131 敗戦直後の人々の暮らし P.133 学校給食を食べる子どもたち、学校給食に出されたパンとお湯にとかした脱脂粉乳	<ul style="list-style-type: none"> ○我が国の歴史における食の変遷、外国における特色ある食に気づき、食に関心をもつ。 ○憲法と暮らしのかかわりを調べることを通して、安全で健康的な暮らしを営む権利が保障されていることに気づく。
	2 わたしたちの暮らしと政治	下 P.20～21 国の省庁とわたしたちの暮らしの関係は？ P.28 広がる基本的人権	
	3 世界のなかの日本とわたしたち	下 P.38～53 調べた国はどんなようすなのか（韓国・中国・アメリカ・ブラジル・サウジアラビア） P.57 イタリアの食卓のようす、ぶどう畑	

○ 安全・防災

学年	単元名	内容	ねらい
3・4年	1 わたしたちの住んでいるところ	上 P.23 中央区防災マップ P.46 福岡市民ぼうさいセンター	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちの住む市町村の防災に関する施設などに関心をもつ。 ○地域社会における災害及び事故の防止について調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きと、そこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考える。 ○強い信念をもって、災害から地域を守るために取り組んだ先人の働きを調べ、よりよい生活を求めて工夫や努力をしたことや、これらの先人の働きや苦心によって地域の人々の生活が向上したことに気づく。
	5 安全な暮らしを守る	下 P.60～91 安全な暮らしを守る P.78～79 地しんによるひ害を少なくするには？ P.92～93 海の安全はだれが守っているのだろうか？	
	6 地いきのはってんにつくした人々	下 P.96～108 よみがえらせよう、われらの広村	
5年	1 日本の国土と人々の暮らし	上 P.14～15 日本の気候を調べる P.16 季節風と日本の気候 P.26～27 家づくりのくふう P.35 寒さから家を守るしくみ P.45 松茂町役場の係の人の話 P.47 低地の暮らし～輪中地帯～ P.50～51 世界の家のようす	<ul style="list-style-type: none"> ○地形条件や気候条件から見て特色のある地域の人々が、自然環境に適応し、生活していることをとらえる。 ○我が国の国土は、さまざまな自然災害が起こりやすいこと、その被害を防止するために国や県（都・道・府）などがさまざまな対策や事業を進めていることをとらえる。 ○日ごろから防災に関する情報などに関心をもち、国民一人一人が防災意識を高めることの大切さに気づく。
	3 工業の発達とわたしたちの暮らし	下 P.4～5 わたしたちの暮らしと自動車 P.20 消費者に合わせた自動車づくり P.21 人にやさしい自動車づくり P.32 安全を支える部品をつくる P.34 働く人を守るためのおもなきまり	
	4 わたしたちの暮らしを支える情報	下 P.56～57 阪神・淡路大震災 P.65 災害と情報ネットワーク	
	5 国土の環境を守る	下 P.76 琵琶湖総合開発 P.88 阪神・淡路大震災で、被害を受けた神戸の街 P.88～93 災害から人々を守る P.94～95 森林がはたす役わり	
	1 日本のあゆみ	上 P.108 関東大震災	
6年	2 わたしたちの暮らしと政治	下 P.10～11 災害の発生と政治のはたらき（阪神・淡路大震災ほか） P.20 厚生労働省について調べる P.31 海外に派遣された自衛隊	<ul style="list-style-type: none"> ○災害が起こったときには、市役所や町・村役場、県（都・道・府）庁が組織的に救援活動を行ったり、災害復旧のための工事を進めたりしていることや、国でも地方公共団体の救援活動を援助したり、災害復旧の施策を進めたりしていることに気づく。
	3 世界のなかの日本とわたしたち	下 P.69 国際緊急援助隊とAMDA(アジア医師連絡協議会)	

1 範囲および程度

ア 取り扱い内容 社会科の目標達成のための適切な内容が取り上げられているか。

学習指導要領の社会科の目標、学年目標・内容・内容の取扱いをふまえて、社会的事象を適切に教材化した単元構成としている。

3・4年 自分たちが住んでいる地域社会の社会的事象について、七つの大単元を設定し、市（区・町・村）や県（都・道・府）の特色を理解するとともに、地域社会の一員としての自覚をもち、地域社会に対する誇りと愛情を育てる内容にしている。

5年 日本の国土や産業について、五つの単元を設定し、日本の国

土と産業の現状や特色を理解するとともに、日本の産業の発展や環境保全の重要性についての関心を深め、国土への愛情を育てる内容にしている。

6年 日本の歴史と政治、国際理解について、三つの単元を設定し、日本の歴史や伝統を大切に、国を愛する心情や平和を願う日本人として、世界の人々と共に生きていこうとする自覚を育てる内容にしている。

イ 内容の程度 学年の発達段階、子どもの興味・関心等に対応しているか。

全学年を通じて、子どもの立場からの発言や話し合い、子どももっている力を最大に発揮しての調べ活動や表現活動、学習内容の整理の仕方などを示唆している。その際、人々との出会いやメディアの活用など、作業的・体験的な活動を子どもの発達段階をふまえて位置づけている。

3・4年 自分たちのまちのようす→市（区・町・村）や県（都・道・府）といった空間的広がり、祖父母→父母→自分たちといった歴史的变化を大切に、単元配列と内容構成を工夫している。地図指導については、屋上からのスケッチから、まちの絵地図、さらに地図記号をもちいた平面地図へとつなげ、「地図を楽しもう」を3・4年下の初めに特設し、地図帳の活用を示唆するとともに、47都道府県の名称と位置の学習につないでいる。

5年 日本の主な産業、産業と国民生活との関連、日本の地理的環境について理解を深めていくにあたって、3・4年の地域学習をふまえて、内容（1）ア・イを第1単元として学年の最初に位置づける

ことで、自然と産業との結びつきをとらえやすくしている。また、ウ・エは第5単元として最後に設定し、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることをとらえやすくしている。さらに、産業活動や国土の環境などの学習を始めるにあたっては、子どもの身近な地域事例を取り上げ、興味・関心を大切にしたい追求を展開し、働く人々の人権、国土の保全、諸外国との協調などについて考えていく内容にしている。

6年 歴史単元では、子どもの興味・関心を重視し、取り上げる人物や文化遺産、歴史事象を精選して、学び方や歴史的なものの見方・考え方を身につけていくように配慮している。政治単元では、これまでの地域学習をふまえて、政治は人々の願いの実現であるという観点から、身近な事例と結びつけ、興味・関心をもって追究していく内容にしている。日本と世界の単元では、一人一人が国際社会の一員であるという立場に立って、ここでも身近な事例を通して具体的に追究していく内容にしている。

2 内容の取り扱い

ア 基礎的・基本的な知識・技能の育成への配慮

社会科では、地域社会や我が国の国土、歴史に対する理解と愛情を深め、日本人としての自覚をもって国際社会で生きていくための基盤となる基礎的・基本的な知識・技能を身につけることをねらい

としている。そのためには、問題解決学習と作業的、体験的な学習の一層の充実が重要である。子どもたちが、興味・関心をもち、主体的に問題解決学習に取り組むことを通して、それぞれの学年でね

らう理解、能力、態度の目標に到達できるような仕組みを設定している。作業的な学習としては、47都道府県ぬり絵マップ、県の学習での白地図、日本の地形では、山地や平地の名称を教科書に直接書き込んだり、白地図を作成したりするとともに、地図帳や地球儀

の一層の活用を図っている。3・4年下及び5年上では、日本の都道府県名の地図を折り込みにし、開くことにより、どの学習にも対応できるように工夫している。

イ 思考力・判断力・表現力の育成への配慮

社会的な見方や考え方を養い、よりよい社会の形成に参画するためには、基礎的・基本的な知識・技能を基盤として、問題を解決するために必要な思考力・判断力、表現力をはぐくむことが必要である。

●思考力・判断力の育成

3・4年では、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力を、5年では、社会的事象の意味について考える力を、6年では、社会的事象の意味をより広い視野から考える力を育てることが求められている。そのために、子どもたちの思考の流れ

を重視し、意欲をもって追究し、問題を解決していく学習展開を、全学年にわたって工夫している。

●表現力の育成

観察・調査や、資料を活用して調べたこと、考えたことを自分なりにまとめるだけでなく、相手にもわかるように表現するには、自分の意見や考えの根拠や過程を明確にするとともに、効果的な表現方法を工夫していくことが必要である。そのために社会科の学習においても「話す・聞く・書く」活動を重視し、言語活動を充実させている。

ウ 言語活動の充実への手立て

言語に関する能力は、社会科の学習での思考力・判断力・表現力、さらに学習意欲を支える基盤となるものである。この能力を育成するために、国語科で培った言語に関する能力を基本に、知的活動の基盤という観点から、観察や調査・見学などの体験的な学習や、話し合いの場面を充実させている。

計画メモ、学習カード、〇〇さんのノートなど、その事例にふさわしい表現方法を選ぶとともに、視点を明確にし、わかりやすいようにしている。

また、随所に子どもたちが自分の予想や考えを出し合う場面や互いの意見を聞き合う場面を設定し、自分の考えを相手に伝え、理解

し合う力を育むことができるように配慮している。

各学年の「たしかめよう」では、ガイドブック、手紙、図、新聞、年表、紙芝居などの多様な手法で自分の考えをまとめ、表現し、話し合うことで、子ども一人一人の見方・考え方がよりたしかなものになるよう、思考と表現が一体となった学習活動を新たに設定している。

また、5年の情報の単元では、我が国の情報産業の様子を理解し、情報の有効な活用の大切さを考えさせるとともに、情報発信についても適切な利用能力を高めるようにしている。

エ 個に応じた指導への配慮

大単元の導入では、社会的事象に出合った4名の子どもたちの、それぞれの疑問や問題意識の発言から学習が始まる。それぞれの子どもたちの多様な見方・考え方を話し合うなかで、共通の学習問題をつかみ、調べていくが、その際、インターネット、図書館、博物館、手紙などのさまざまな方法で、興味をもって調べたり、それに基づく表現活動も、多様な方法で行えるように展開を配慮している。また、「学び方・調べ方コーナー」では、社会科の苦手な子どもに対しても、明

確にポイントを示し、具体的に指導できるように配慮している。

さらに、学習指導要領の内容を身につけている子どもに対しては、内容の理解を深めたり、さらに進んだ学習を行ったりする参考事例として、全学年にわたって「大きくジャンプ」を各小（中）単元末に設定している。これにより、子どもたちの知的好奇心や関心や興味とともに、社会認識を広げたり、深めたりできるようにしている。

オ 他教科、道徳、総合的な学習の時間等との関連

●生活科への配慮

社会科のスタートである3・4年の社会科では、生活科で培われた直接的な体験や活動を通じた「知的な気づき」（社会的認識の芽）をもとに、2学年を通して自分たちの住んでいる地域社会について、社会的認識すなわち、空間（地理）的・時間的（歴史）認識を広げ、深めていく工夫をしている。

●総合的な学習の時間、発展的な学習への配慮

学習指導要領に示す内容を身につけている子どもに対して、さらに深め、高めた学習内容を、全学年ともに、各単元末に「大きくジャンプ」として、総合的な学習への関連づけとなるような学習内容や、発展的な学習内容に応じた教材を掲載している。それぞれの展開は、問題解決学習の筋道になっており、博士のアドバイスで、さらに進んだ内容について学習できるように配慮している。なお、学習指導要領に示されていない内容を扱った教材には、カンガルーマークをつけている。

●道徳の時間との関連

見学や聞き取りにあたり、電話の仕方や、交通ルールを守ることなどは、道徳の内容項目である礼儀や公德心などに関連して、特設された「学び方・調べ方コーナー」で、注意事項が具体的に示されている。また、3・4年下の地域の先人の働きの学習では地域や社会に対する誇りや愛情を、5年の国土、6年の歴史の学習において取り上げられている事例によっては、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、伝統と文化を尊重し、郷土を愛する心情を涵養することが期待できる。さらに、日本と世界の学習において示された事例は、公民的資質の基礎を養うことに適しており、主として集団や社会とのかかわりに関する内容と密接なかかわりをもって指導することが可能である。

特に、3・4年上の祭りや行事、3・4年下のお話「稲むらの火」は、郷土愛の教材として、道徳の時間に活用することもできる。

3 教材の選択、組織・配列、分量

ア 教材の選択 各学年の社会的事象・事例等の選択に対する配慮はどのようになされているか。

学習指導要領の各学年の「内容の取扱い」において示された、「…の中から選択」「事例地を選択」「…の中から一つを取り上げる」等を受けて、各学年とも適切に事象や事例を選択するとともに、主教材のほかに、選択教材を設け、各地域や学校の実態にも対応

できるように配慮している。さらに、子どもの追手を支援するために、「学び方・調べ方コーナー」を随所に設け、学習方法のスキルアップが図れるように工夫している。

イ 組織・配列 子どもの発達段階を考慮し、学習が効率よく進められるように配慮されているか。

子どもの思考の流れを考慮した、組織・配列をしている。子どもが自ら見つけ出した問題を解決するために、調べ学習などの具体的な学習活動を通して理解を深め、追究し、気づくとともに、調べたことや考えたことを表現していく過程をわかりやすいように配列している。

大単元導入（大単元の展望）→小単元の最初（めあて）→毎見開きの最初（わたしの問題）→学習の区切りの最後（わたしの見方・考え方）→小単元末（たしかめよう）→小（中）単元終末（大きくジャンプ）
また、二学期制を導入している学校に対する配慮として、各学年の単元構成は、前期と後期にも配分しやすく配列している。

ウ 分量 内容の精選と焦点化が図られ、分量は適切か。

学習指導要領の内容を受け、各小単元に「めあて」、「たしかめよう」を設定することで、学習のねらいを明確にしている。さらに「わたしの問題」「わたしの見方・考え方」によって追究過程を示唆し、その小単元での学習の基礎・基本（理解・態度・能力）の定

着に重点を置いた内容の精選と焦点化を図っている。また、学習対象についての情報や資料、追究過程を原則見開き2ページにまとめ、コンパクトに配分している。

4 社会的重要課題への対応

ア 人権・福祉に関する内容

人権尊重を基本理念として、共生社会をめざす姿勢を大切にしている。

3・4年 地域に密着した学習を展開することを通して、地域の人々と触れ合う活動や、人々の営みや働く姿への共感をもてる学習活動を設定し、地域に対する愛情を育てるとともに、地域の人々の願いを感じ取り、地域の一員として積極的に働きかけていく展開を工夫している。

5年 日本の国土や産業を学習することを通して、人権・福祉にかかわる多くの問題があることに気づかせるとともに、それらの問題を解決するための取り組みについても触れ、働く人の人権を守ること、共生社会の実現、これからの社会のあり方を考えさせようとしている。

6年 歴史単元では、人々の社会生活向上へのあゆみを追究していくことを通して、代表的な歴史上の人物の働きとともに民衆のくらしや願い・思いに着目させ、人間尊重の精神や人権意識を育てていくように配慮している。政治単元では、人々の願いとその実現への営みを追究していくことを通して、人権・福祉の問題を政治とのかかわりを通して取り上げ、現代社会におけるこれらの問題の解決に取り組む構えをもたせようとしている。日本と世界の単元では、国際社会のあり方を追究していくことを通して、地球規模での共生社会の実現に向けて考えさせるようにしている。

●高齢社会の問題
高齢者との交流（3・4年上）や、第一次産業従事者や農山村

の高齢化（5年）、民生委員の活動（6年）などの事例を通して、高齢化の進む社会のあり方について考えさせようとしている。

また、5・6年で取り上げている障害をもった人の姿や、点字印刷を施したバリアフリーに関する教材（6年下）なども取り上げ、人権や福祉にかかわる多様な問題に目を開かせようとしている。

●働く人の問題
「労働」についての意義をつかませ、働く人を見つめることを通して、人間尊重・人権確立をめぐるさまざまな問題について考えさせようとしている。

●部落問題
部落問題の解決は、国の責務であり、国民の課題であることをふまえ、6年の歴史・政治単元において、近世の幕藩体制下における身分制度を中心に、中世・近代・現代を通して位置づけている。

●外国人の人権問題
日本でくらしている外国人、特に在日韓国・朝鮮人に対する偏見や差別については、歴史学習・憲法学習をふまえて、この問題に取り組む姿勢をつくらせようとしている。

●女性の人権問題
5年での働く女性の問題、6年の歴史単元での地位の向上を求め続けた近代の女性の姿、憲法学習での男女平等の問題を取り上げているだけでなく、各学年の学習のなかで、女性の活躍する様子を示し、男女共生社会の実現に向けて、現代の問題として取り組ませようとしている。

イ 我が国の国土と歴史への理解と愛情に関する内容

社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うことが、社会科の目標である。

●公民的資質の基礎

このねらいを達成するために、3・4年で、身近な地域から市、さらに、県の様子、5年では、国土の地理的環境とそこで営まれている産業の様子などの理解を図り、我が国の国土に対する理解と愛情を育てようとしている。6年では、3・4年での地域の人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きの学習をふまえ、我が国の歴史に対する理解を深めていくように内容や構成に配慮している。このような学習によって、平和で民主的な国家・社会の形成者としての自覚をもち、互いに尊重し、義務や責任を果たそうとしたり、公正に判断したりすることの態度や能力を育成することが期待できる。

●伝統や文化の尊重

歴史や文化を大切にし、日本人としての自覚をもつようにするには、伝統・文化を尊重する態度を育てることが重要である。3・4年では、自分たちが住んでいる町の寺などを観察したり、昔の様子やいわれを聞き取ったりすることで、今も残る古くからある建造物に興味をもた

せるようにしている。また、七輪等の昔から使われている道具を使う体験や、町に伝わる祭りなどの文化財や年中行事の調査を通して、人々の知恵や願いに気づかせていくようにしている。6年では、生け花や茶の湯などの今に残る室町文化の体験的な学習や、江戸時代の町人文化を調べていくなかで、それらの文化が外国へも影響を与えたことや、今も親しまれていることなどをとらえる学習から、子どもたちが日本の伝統や文化を実感としてとらえられるように配慮している。「大きくジャンプ」では、「国宝は、どのような宝物なのか？」を取り上げ、日本の文化の特色を考え、自分たちの住む地域の文化財を調べてみるように示唆している。

●国旗と国歌を尊重する態度の育成

子どもたちが、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を身につけるために、4年「県とつながりのある世界の国々」や5年「日本のまわりの国々」などでは、我が国や諸外国の国旗を、6年「スポーツや文化を通じた国際交流」では、日章旗（日の丸）と君が代の由来を通して、我が国の国旗と国歌の意義を理解し、これを尊重する態度を育てるとともに、諸外国の国旗と国歌も同様に尊重する態度を育てるように配慮している。

ウ 平和・国際理解に関する内容

平和で豊かな共生社会の実現を視点に、子どもの発達段階をふまえて社会的事象を教材化している。平和問題については、6年の歴史単元の「アジア・太平洋に広がる戦争」で、当時の国際情勢をおさえつつ、日本の対外政策のあり方について考えるとともに、戦争の悲惨さ、特に侵略された側の人々の痛みがわかるように配慮している。政治単元では、日本の平和への願いと憲法の平和主義について触れ、次単元の「世界のなかの日本とわたしたち」では、現在の

平和の問題とそれに取り組む日本と日本人の姿を具体的事例をあげて示し、子どもたちに、平和を願う地球市民としてのこれからのあり方について考えさせようとしている。国際協調については、各学年の学習のなかで、外国との結びつきを通して、国際化の進展を実感するとともに、国際協調の大切さを認識することができるように配慮している。また、そのためには、それぞれの国の文化や伝統を理解し、お互いに尊重し合うことが必要であることをおさえている。

エ 環境問題に関する内容

自然環境や生活環境について、子どもの発達段階に応じて、自分の家庭や身近な地域から、広く地球規模の問題にまで関心をもち、それらの問題を考えていくよう系統的に位置づけている。

3・4年上→リサイクルコーナー、レジ袋の削減（スーパーの学習）

3・4年下→リサイクル活動（ごみ）、水を守る工夫や取り組み（水道）、自然環境の保全（先人の働き）、町なみを守る運動等（県）、フリーマーケットって何だろう？（大きくジャンプ）

5年上→消費者が求める米作り（農業）、水田のはたらき、フードマイレージってどんなこと？（大きくジャンプ）

5年下→環境にやさしい自動車（工業）、「国土の環境を守る」（全編）、こどもエコクラブ（大きくジャンプ）

6年上→足尾鋇毒事件（近代）、江戸時代のリサイクルは？（大きくジャンプ）

6年下→基本的人権と生活環境（政治）、地球環境問題と国連のはたらき、緑の地球ネットワーク（世界のなかの日本）、エコプランを考えよう（大きくジャンプ）

オ 情報化社会に関する内容

学習指導要領の「調べたことや考えたことを表現する力」を育てようとする意向を受けて、情報の収集や整理を行うとともに、学習の内容を発信する活動を、学年の系統と子どもの発達段階をふまえ、学習展開のなかで適切に位置づけている。特に、「学び方・調べ方コーナー」では、地図、表、グラフ、パンフレットなどのつくり方や聞き取りのしかた、電子メールやインターネットの使い方などを子どもたちにわかりやすく示している。また、「たしかめよう」で

は、地図、表、図、紙芝居、新聞などさまざまな方法で、子どもたちが調べたことや考えたことを相手にもわかりやすく発信できるように配慮している。5年の第4単元「わたしたちの暮らしを支える情報」では、医療機関のネットワークを具体的事例として取り上げ、情報化の伸展の意義を体感させるとともに、情報化社会の問題点もあわせて指摘し、これからの社会を生きる子どもたちに必要な資質を身につけようとしている。

カ 健康・消費者に関する内容

人々の健康な生活や良好な生活環境について理解し、地域社会の一員としての自覚をもつことができるように、子どもの発達段階をふまえて教材化している。

3・4年上では、商店としてスーパーマーケットを取り上げ、子どもたちが調べる内容として、販売者側の工夫だけでなく、子どもたちや家族の消費者側が、上手な買い物するために、価格のほかに、安全性の観点から、品質・産地・賞味期限などを考えて、店や商品を選んで購入していることもおさえられている。また、工場や農家の生産現場においても、安全な食品をつくることの重要さをおさえている。

3・4年下では、健康な生活の維持と向上を図るうえで欠かせない

飲料水を取り上げ、命と暮らしをささえる水が、いつでも使えるように、大量に確保されていることが指摘されている。5年の産業の学習では、農・水産業、工業のいずれにおいても、消費者のニーズをふまえて生産が行われていることが適切に示されている。また、環境の単元では、P.83そうたさんのノートのように、さまざまな公害を調べ、この問題を自分の生活とのかかわりでとらえさせ、国民の健康を守ることの大切さ、国民一人一人の協力の必要性に気づくようにしている。

また、現在と戦後の学校給食の様子、地産地消、郷土料理なども取り上げられており、伝統的な食文化や、食に関する知識や興味・関心を深めていけるよう、食の視点に関しても配慮している。

キ 安全・防災に関する内容

生命や財産を脅かす災害や事故・事件から、人々の安全を守り、防ぐために、関係機関、国や県などが相互に連携して対応しているが、一人一人が、自らを守り、安全を確保するための知識と能力を向上していくことがますます重要になってきている。

3・4年では、地域社会における消防署と警察署を取り上げ、人々の安全を守るための働きを、先人の働きでは、津波の被害から村人を守った浜口梧陵を取り上げるとともに、「大きくジャンプ」では、「地しんによるひ害を少なくするには？」と、「海の安全はだれが守っているのだろうか？」を取り上げている。

5年では、我が国の国土はさまざまな災害が起こりやすいこと、地震だけでなく他の災害に関しても国や県がさまざまな対策や事業を進めていること、工業では働く人の安全を守る工夫、情報では、災害時の情報ののはたらきと、幅広く取り上げている。

6年では、災害復旧の取り組みとして、震災・豪雨の際における救援活動や復旧活動には、政治の働きが反映していることを取り上げている。特に、大きな被害をひき起こした阪神・淡路大震災は、3・4年下、5年、6年で取り上げている。

5 創意工夫

ア 子どもの主体的な学びを支援し、学習意欲を高める工夫

子どもの学ぶ意欲の喚起と支援とに配慮して、以下のような編集上の工夫をしている。

①ビジュアルなページ構成

本の大きさをA B判として、図版スペースを広く取るとともに、さらにビジュアルでゆとりをもったページ構成を実現している。各単元の展開ページにおいては、生き生きと活動する子どもの姿や働く人々の姿を的確にとらえた写真を掲載し、子どもの共感を呼び、学習意欲を高めるように工夫している。

②子どもの追究過程を構造化

各単元は、おおよそ次の構造をもつように統一されている。大単元導入（大単元の展望）→小単元の最初（めあて）→毎見開きの最初2ページ（わたしの問題）→学習の区切りの最後（わたしの見方・考え方）→小（中）単元末（たしかめよう）→小（中）単元終末（大きくジャンプ）

この構造のもと、集団とのかかわりのなかで追究する個々の子どもたちに対して、支援する要素を的確に位置づけ、問題解決学習の実践化への配慮をしている。

大単元導入

- *子どもの発言…提示された図版に対して、4人のキャラクターが生活経験、興味・関心などにそって追究の方向性を発言
- *お茶の水博士の発言…図版等の説明や子どもの発言のきっかけとなる投げかけを提示
- *学習のまど…学習を始めるにあたっての、子どもの興味・関心、これまでの経験を把握するための投げかけ

イ 問題解決学習の示唆

学習指導要領の趣旨である「調べ、考え、表現する」をふまえ、積極的にフィールドワーク・デスクワークが取り入れられている。子どもたちの素朴な疑問から、問題をつかみ、見直しをもって調べ、考え、解決していく流れになっている。「たしかめよう」では、自分の考えたこと、調べたことを表現していく学習を重視している。また、3・4年上下、5年上、6年上の最初に、見開き2ページで、「この教科書のしくみ」を掲載し、教科書の構成をつかめるようにしている。

- *小単元の最初（めあて）…小単元全体を見通す目標
- *わたしの問題…提示された資料や学習活動、それまでの学習展開のなかで生まれた疑問や問題
- *わたしの見方・考え方…複数の「わたしの問題」を追究したうえで、たどり着いた事実認識・意味認識
- *小（中）単元末（大きくジャンプ）…基礎・基本をふまえて、総合的な学習への手掛かりとなる内容や、発展的な学習につながる学習内容を提示

③「学び方・調べ方コーナー」の拡充

社会科の学習を進めるうえで必要な調べ方や、調べたことや考えたことを表現する能力を育てるために、学習展開の適切な位置に、お茶の水博士の「学び方・調べ方コーナー」を配置し、活動のポイントなどを明示して、子どもの学習を支援するとともに、スキルアップが図れるよう工夫している。

④個性豊かな登場人物

各学年とも、学級を代表する4名の子どもたちが登場して、学習活動を展開している。その登場人物の発言や活動の様子が、学習者の追究意欲を喚起するとともに、学習活動の参考となるように配慮している。

⑤学習内容と評価の関連

子どもたちによる「○○さんのノート」や、学習カード、学習をまとめた作品等を多く例示することで、評価する際の資料としている。また、通常の学習においても、ノートや学習カード例の示唆や「わたしの見方・考え方」による学習の振り返りが配置されており、評価の視点づくりに配慮されている。指導と評価の一体化が図られているといつてよい。

3・4年 生活科からの発展をふまえて、楽しく学び合う問題解決学習を展開している。地域の事象と出合った子どもの個性的な問題意識をきっかけに、具体的な「わたしの問題」をもち、その問題を友だちと楽しく追究していく姿を示唆している。

（例）屋上からのスケッチ→話し合い→グループでのまちたんけん→絵地図・平面地図づくり→話し合い→市の様子調べ

5年 中学年の学習を進展させ、「学ぶ力」を高める問題解決学習を

展開している。社会的事象の現状に直面することから調べ活動に入り、問題を明確にし、その問題について再度調べ、話し合ったり、考えたりする活動を繰り返すことを通して、問題に対する認識を深め連続して問題の解決へ取り組んでいく姿を示唆している。（例）産業学習での生産性・経済性についての問題意識から、環境・人権・国際的な視点に着目し、事象について多面的・発展的にとらえていく活動の流れ。

6年 地域の博物館の見学からうかんだ疑問をもとに、テーマを決め、調べていく。さらにテーマを広げて調べ、まとめて発表するという学

びのモデルをきっかけに、歴史上の人物の働きや事象のもつ意味を連続して探っていく姿を示唆している。政治単元では、見学やインターネットを活用した資料収集など、多様な調べ活動を生かして政治の働きや日本国憲法の基本的な考え方を身近にとらえられるように配慮している。国際理解の単元では、聞き取りやインターネット、地図などを活用するとともに、自分自身の生活経験や学習経験、留学生との交流などを通して、子どもたちが主体となって学習を進めていく姿を示唆している。

6 正確性及び表記・表現

ア 本文記述

本文は、学習の進め方や子どもの追究過程を中心とした記述とし、子どもの「主体的な学習」を支援する手引きとなるよう配慮している。また、本文に対応して、子どもが書いた「見学メモ」「○○さんのノート」など、調べ方や調べたことの整理の仕方などを例示している。その際、子どもの発達段階をふまえ、使用する用語・語句を吟味する

とともに、学習の流れが理解しやすいように表現が配慮されている。さらに、文末は「です」「ます」で統一している。漢字は、原則として当該学年の配当漢字までを使用し、当該学年以上の配当漢字や社会科用語・固有名詞等の漢字には、見開き2ページごとの初出にふりがなをつけ、読みの抵抗を少なくする配慮をしている。

イ 写真・イラスト・各種資料

全体を通して、特に導入ページ（大単元、歴史単元は中単元）では、インパクトのある写真やイラストを中心に構成している。そして、大きな判型（A B判）を採用したことにより、さらに迫力のあるページ構成となっている。また、学習展開に沿って、生き生きと追究する子どもたちの姿などを、写真資料としてレイアウトに工夫

を凝らして掲載し、子どもの学習意欲を喚起しようとしている。地図・グラフ等の資料については、最新のデータを採用し、必要に応じてその出典・年次・場所などを明記して正確性を期すとともに、学年の系統と子どもの発達段階に配慮した表現方法をとっている。

ウ 印刷・製本

●カラーユニバーサルデザインへの配慮

この教科書は、色覚の個人差を問わずできるだけ多くの子どもたちに見やすいよう、カラーユニバーサルデザインに配慮して制作されている。具体的には、地図等は各要素の識別が容易にできるような色遣いを基準にして作図・配色されており、子どもたちにとって読み取りやすいものになっている。また、グラフには要素ごとに黒線の境界線が施され、確実に数値を読み取ることができる。

●環境への配慮

教科書の表紙には、従来よりも工夫された表面加工を施すなど、

化学物質に過敏な子どもに少しでもやさしいものになるような配慮がなされている。また、印刷においては、大豆を成分とした大豆油インキが使用され、環境にもやさしい本であるといえる。

●堅牢で使いやすい造本

表紙は美しく丈夫な表面加工が施されているが、名前の記入欄だけは加工をのぞくといった細心の配慮がなされている。また、製本は通常の無線綴じよりも丈夫なあじろ綴じが採用され、従来の針金綴じよりも本が大きく開くように改良されている。

3・4年上 (全70時間)

2学期制	3学期制	月	単元	配当時間	めあて	指導要領	
前期	1学期	4月	上巻導入 (全1時間)	1	自分たちの住む地域の様子や、地域で働く人々の様子の写真を手がかりに、これから学習する事象に関心をもち、社会科学習への意欲を高めることができる。	(1)ア	
		4月	1 わたしたちの住んでいるところ (全24時間) 大単元導入	1	自分の住んでいるところの様子を発表し合うなかで、まちの様子について関心をもつことができる。		
			1 わたしたちのまちのようす	13	学校のまわりの様子を、高い所から観察したり、まち探検をしたりして、白地図にまとめることにより、場所によって違いがあることをとらえることができる。		
			5月	●まちにある地図を見つけよう	—		
			6月	2 わたしたちの市のようす	10		自分たちの住んでいる市(区・町・村)の特色ある地形、土地利用の様子、主な公共施設などの場所と働き、交通の様子、古くから残る建造物などについて調べ、市の各地の様子は、地形的な条件や社会的な条件によって違いがあることをとらえることができる。
	7月	●わたしたちの市と韓国とのつながり	—				
	2学期	9月	2 暮らしをささえるまちではたらく人と (全26時間) 大単元導入	1	ものをつくったり、売ったりしている人たちが買い物をする人の写真をもとに、自分たちの地域には生産や販売の仕事があることに気づき、これからの学習に関心をもつことができる。	(2)アイ	
		10月	1 店ではたらく人びとの仕事	13	スーパーマーケットを事例に、地域の販売に関する仕事について調べ、自分たちの生活とのかかわり、携わっている人々の工夫や努力、国内の他地域や外国との結びつきをとらえることができる。		
		10月	●地産地消って何だろう?	—			
		11月	2 畑ではたらく人びとの仕事 ■工場ではたらく人びとの仕事	12	地域の農家を事例に、地域の生産に関する仕事について調べ、自分たちの生活とのかかわり、携わっている人々の工夫や努力、国内の他地域や外国との結びつきをとらえることができる。		
12月		●バナナのたび	—				
後期	3学期	1月	3 今にのこる昔とくらしのうつりかわり (全19時間) 大単元導入	1	昔のくらしや、地域に受け継がれている祭りや行事の様子がうかがえる写真を手がかりに、昔の道具や人々のくらしの変化、人々の願いに関心をもつことができる。	(5)アイ	
		1月	1 昔の道具と人びとのくらし	11	身近にある道具について調べ、祖父母・父母の子どものころから今へと、人々の生活が変化したことや、生活には人々の知恵や願いがあることをとらえることができる。		
		2月	●世界各地で昔から使われてきた道具	—			
	2月	2 昔からつたわる行事	7	地域に残る祭りや行事を調べ、地域で受け継がれている様子や、そこに込められた人々の思いや願いをとらえることができる。			
	3月	●外国のさまざまな祭りや行事	—				

3・4年下 (全90時間)

■せんとく ●大きくジャンプ

2学期制	3学期制	月	単元	配当時間	めあて	指導要領	
前期	1学期	4月	下巻導入 (全1時間)	1	自分たちの住む県(都・道・府)の様子や、人々が健康で安全な生活をおくれるように働いている人々、地域の発展に尽くした先人などの写真を手がかりに、これから学習する事象に関心をもち、社会科学習への意欲を高めることができる。	(6)ア	
		4月	地図を楽しもう	7	方位、地図記号、縮尺、等高線などについて知り、地図から実際の位置関係や地形の様子、及び47都道府県の名称と位置をとらえることができる。		
			4 健康なくらしをささえる (全22時間) 大単元導入	1	1日のくらしのなかで、水、電気、ごみの処理などが、わたしたちの生活とかがわっていることに気づき、これからの学習に意欲を高めることができる。		
			5月	1 ごみのしよりと活用	12		家庭や学校などから出されるごみの種類や量などを手がかりに、処理の仕方の工夫、資源として活用する取り組み、最終処分場の確保にかかわる対策や事業が、計画的、協力的に進められており、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境を守るために欠かすことができないものであることをとらえることができる。
			6月	●フリーマーケットって何だろう? 2 命とくらしをささえる水	9		家庭や市町村での飲料水の使われ方や使用量などを手がかりに、人々の生活や産業に欠かすことのできない飲料水が、ダムや浄水場などの建設や、森林の保全などが計画的に進められていることによって、いつでも使えるように確保されていることをとらえることができる。
	7月	●水は買うもの?	—				
	2学期	9月	5 安全なくらしを守る (全21時間) 大単元導入	1	火災や交通事故などの写真を見て、災害や事故から人々の安全を守る消防署や警察署の働きについて関心をもち、学習意欲を高めることができる。	(4)アイ	
		10月	1 なくそう、こわい火事	11	火災を見た経験などから、消防署の働きに関心をもち、見学や調査、聞き取りを行い、人々の安全を守るための、消防署の日常の取り組み、緊急事態に対する備え、消火栓などの施設や設備の働きなどから、地域の人々と協力して、火災防止に努めていること、また、発生時には、関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていることをとらえることができる。		
		10月	●地しんによるひ害を少なくするには?	—			
		11月	2 ふせごう、交通事故や事件	9	交通事故が起きた時の警察署の対応について調べ、警察署が、地域の人々と協力して、事故の防止に努めていること、また関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていることをとらえることができる。		
11月		●海の安全はだれが守っているのだろう?	—				
後期	3学期	12月	6 地いきのはってんにつくした人々 (全13時間) 大単元導入	1	県の発展のためにつくした人たちの写真や業績を手がかりに、地域を開発した先人の働きについて関心をもち、学習意欲を高めることができる。	(5)ウ	
		12月	1 よみがえらせよう、われらの広村 ■かんきょうを守りぬいた南方熊楠 ■医学のはってんにつくした華岡青洲 ■産業のはってんにつくした大畑才蔵 ●外国にうつり住んだ人々	12	「稲むらの火」で取り上げられている浜口梧陵の事例から、先人の働きや苦心が地域の人々の生活の向上に大きな影響を及ぼしたことをとらえることができる。		
		12月	●外国にうつり住んだ人々	—			
	1月	7 わたしたちの住んでいる県 (全26時間) 大単元導入	1	自分たちの住んでいる県(都・道・府)のイラストマップなどを手がかりに、県(都・道・府)の特色をとらえる学習に意欲を高めることができる。			
	1月	1 わたしたちの県のようす	5	地図や地図帳を活用し、自分たちの住んでいる県(都・道・府)や市(区・町・村)、県(都・道・府)全体の地形や主な産業の概要、交通網の様子や主な都市の位置をとらえることができる。			
3学期	2月	2 県の人々のくらし ■ゆたかな自然を生かす人々 ●まだまだあるよ、伝統的な工業製品	15	備前焼のさかんな備前市、古い町並みの残る倉敷市、豊かな自然をいかに森山高原を事例に、地域の人々が、自然環境、伝統や文化などの地域の資源を保護・活用しながら、互いに協力して、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることをとらえることができる。			
	2月	3 人やものによるつながり	5	外国からの観光客をはじめ、交通手段を利用した人々の行き来が盛んに行われていることや、農業や工業における原材料の仕入れや生産物の出荷などの面で、人々の生活や産業が国内の他地域や外国と結びついていることをとらえることができる。			
	3月	●わたしたちの県とつながりの深い国	—				

5年(全100時間)

■せんとく ●大きくジャンプ

2学期制	3学期制	月	単元	配当時間	めあて	指導要領		
前期	1学期	4月	上巻導入 (全1時間)	1	日本のいろいろな土地のようすや、そこに住む人々の仕事やくらしのようすの写真を手がかりに、これから学習する事象に関心を持ち、社会科学習への意欲を高めることができる。	(1)アイ		
			1日本の国土と人々のくらし (全20時間)	1	国土の衛星写真や地図帳を手がかりに、国土の自然と人々のくらしについて学習課題をもつことができる。			
		5月	1日本ってどんな国	8	地図や地球儀、資料などを活用し、六大陸と三大洋、主な国の名称、我が国の位置と領土についてとらえることができる。さらに地図帳や資料も活用して、日本の地形や気候の概要を調べ、日本の自然環境の特色をとらえることができる。			
			●どこがちがう？日本の川と外国の川	—				
		6月	2さまざまな土地のくらし	11	気候や地形から特色ある地域の写真を見て、気候や地形がそこに住む人々の生活や産業に影響を与えていることに気づかせる。事例として、沖縄県や徳島県上勝町の土地の様子や人々のくらしを調べるなかで、人々が自然環境に適応しながら、生活や産業を営んでいることをとらえることができる。			
			■寒さのきびしい北海道旭川市 ■きびしい寒さを生かす ■気候を生かした農業	—				
		7月	■低い土地でのくらし、徳島県松茂町 ■土地を生かした農産物 ■低地のくらし～輪中地帯～ ●世界の家のようす	—				
			2わたしたちの食生活と食料生産 (全26時間)	1	給食の写真を手がかりに、食生活と食料生産とのつながりに関心を持ち、学習課題をもつことができる。			
		2学期	10月	1米作りのさかんな地域	11		主食としてわたしたちの食生活にかかわりの深い米の生産地を調べることで、日本の北の地方で盛んに作られていることをとらえることができる。秋田県横手盆地における米作りのようすを事例に、米作り農家は、消費者の需要にこたえ、良質な米を生産し出荷するために、さまざまな工夫や努力をしていることに気づかせる。さらに米作り農家がかかえている問題や、新しい米作りの取り組みの現状をとらえることができる。	(2)アイウ
				2水産業のさかんな地域	9		わたしたちの食生活になくってはならない水産物の漁場を調べることで、日本は、海流や大陸棚などの恵まれた自然条件により、水産業の盛んな国であることをとらえることができる。長崎県松浦市を事例に、沖合漁業の様子を調べ、人々が新鮮で良質な魚を届けるために、さまざまな工夫や努力をしていることに気づく。さらに、水産資源の保護や、環境の改善などの問題と取り組む人々の工夫や努力をとらえることができる。	
後期	2学期	10月	3これからの食料生産	5	スーパーマーケットの食料品売り場を調べ、国民の食生活を支えている主な食料のなかには、国産だけではなく、外国からの輸入に依存しているものがあることに気づく。また、主な食料の自給率の移り変わりのグラフから、食料輸入の問題について考えるときともに、国内の生産を盛んにするための取り組みについて考えることができる。	(3)アイウ		
			●フードマイレージってどんなこと？	—				
			下巻					
			3工業の発達とわたしたちのくらし (全21時間)	1	自動車の組み立て工場の写真を手がかりに、自動車生産のようすや働く人々に関心を持ち、学習意欲を高めることができる。			

2学期制	3学期制	月	単元	配当時間	めあて	指導要領
前期	2学期	11月	1自動車工業のさかんな地域	11	自動車果たしている役割や自動車社会の問題に関心をもつことができる。自動車はどこでどのようにしてつくられているか、三重県鈴鹿市の自動車工場を事例にして調べ、生産の仕組みや働く人の工夫や努力、できあがった自動車のゆくえ、関連工場とのかかわりについてとらえることができる。さらに安全や環境に配慮した新しい製品をつくるための工夫や開発について調べ、工業生産に従事している人々の願いをとらえることができる。	(4)アイ
			●世界食、即席めん	—		
		2日本の工業の特色	9	身のまわりにある工業製品を調べたり、日本で盛んな工業の種類を調べたりすることにより、さまざまな工業製品が国民生活を支えていることをとらえることができる。さらに工業が盛んな地域の分布を調べ、我が国全体の工業生産の現状や特色を具体的にとらえるとともに、工業生産に従事している人々の工夫や努力をとらえることができる。また、工業生産を支える原料や工業製品の動きについて調べ、外国との貿易の現状や問題点をとらえることができる。		
		●どれが石油からつくられている？	—			
後期	3学期	1月	4わたしたちのくらしを支える情報 (全14時間)	1	テレビやインターネットなどに関する写真を手がかりに、自分たちの生活と情報の結びつきについての学習課題をもつことができる。	(4)アイ
			1情報を伝える	8	情報を入手するにはさまざまな方法があることを知り、情報を伝える産業に関心をもつ。そのなかで、テレビ局の仕事の様子や働きについて調べ、情報を発信する産業に従事している人々の工夫や努力をとらえることができる。さらに、テレビから手に入る情報を取り扱う際のさまざまな問題などに気づくとともに、阪神・淡路大震災のときには、情報の収集や発信が極めて大切であったことをとらえることができる。	
		2情報化社会を生きる	5	わたしたちの身のまわりにはたくさんの情報があり、生活には欠かせないものとなっていることに気づく。医療の分野において、情報ネットワークを有効に活用して公共サービスの向上が図られている事例を調べ、情報化の進展が生活に大きな影響を及ぼしていることをとらえることができる。また、くらしや産業に大きな影響を及ぼす情報について、利用するときマナーやルールを守ることの大切さを考えることができる。		
		●「ごうかい」って何？	—			
後期	3学期	2月	5国土の環境を守る (全18時間)	1	琵琶湖とそのまわりの写真を見て、開発による環境の変化について考え、学習課題をもつことができる。	(1)ウエ
			1国土の開発と自然	7	琵琶湖のはたらきや特色、自然のようすについて調べ、さらに琵琶湖の開発について調べるなかで、自然破壊の様子をとらえ、自然保護の大切さについて考えることができる。そこから、過去の公害や現在の環境問題について調べ、国民の健康や生活環境を守ることの大切さととらえることができる。	
		●地球は、ほんとうにあなたかくなっているの？	—			
		2災害から人々を守る	4	日本では地震や津波、風水害、土砂災害、噴火などのさまざまな自然災害が起りやすいことに気づき、自然災害の被害を防止するために、国や県(都・道・府)などがさまざまな対策や事業を進めていることをとらえることができる。		
3月	3自然を守る運動	6	日本の土地利用や森林の分布の状況をつかみ、森林のはたらきや果たす役割を調べることができる。具体的には森林を守り育てる仕事について調べ、仕事の大変さや従事者不足の問題について考えるときともに、住民が森林を守り育てる努力をしていることをとらえることができる。さらに自然を守る各地の取り組み、自然保護運動について調べ、自分たちも進んでそのような活動に取り組もうとする意欲をもつことができる。			
	●「こどもエコクラブ」って何？	—				

6年(全105時間)

■せんたく ●大きくジャンプ

2学期制	3学期制	月	単元	配当時間	めあて	指導要領
前期	1学期	4月	上巻導入 (全1時間)	1	国ができたころから現代までのあゆみを、時代を代表する事象の絵図や写真を手がかりに、これから学習する事象に関心をもち、社会科学習への意欲を高めることができる。	
			1 日本のあゆみ (全71時間)	2	地域の歴史事象について自ら調べ、年表づくりなどの表現活動を通して、日本のあゆみを概観し、時代の流れをつかむことができる。	
			1 大昔のくらしと国の統一	1	縄文時代と弥生時代のさし絵を手がかりに、狩猟・採集から、米作りのはじまりと国が統一されていく時代についての学習課題をつかむとともに、学習計画を立てることができる。	(1) ア
		5月	(1) むらからくにへ	3	三内丸山遺跡、登呂遺跡や吉野ヶ里遺跡などを調べ、狩猟・採集と米作りのはじまったころの生活の様子や、小さなむらが大きくなっていく社会の変化をとらえることができる。	
			(2) 国が統一される	3	ナガレ山古墳や大仙(仁徳陵)古墳を調べ、各地に大きな力をもった豪族が出現し、やがて、大和朝廷により国土が統一されたことをとらえることができる。	
			●日本列島に人が住みはじめたころ	—		
	2学期	6月	2 貴族の政治とくらし	1	大極殿や東市のさし絵を手がかりに、国の仕組みや政治、人々の生活に関心をもち、学習課題をつかむとともに、学習計画を立てることができる。	(1) イ
			(1) 新しい国づくりをめざす	4	大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営について調べ、天皇を中心とした政治が確立されたことをとらえることができる。	
			(2) 貴族が日本風の文化を生み出す	3	藤原道長のくらし調べから、力をもった貴族による日本風の文化が発達したことをとらえることができる。	
		7月	3 武士による政治のはじまり	1	武士の屋敷のさし絵を手がかりに、貴族に代わって武士が中心となった当時の社会や人々の生活に関心をもち、学習課題をつかむとともに、学習計画を立てることができる。	(1) ウ
			(1) 源氏と平氏の戦いと鎌倉幕府	3	源氏と平氏の争いについて調べ、貴族に代わって武士が力をもつようになったこと、源頼朝が鎌倉に幕府を開き、武士による政治がはじまったこと、元との戦いで、その仕組みが崩れていったことをとらえることができる。	エ
			(2) 室町文化が生まれる	4	世界遺産である金閣や銀閣などの代表的な建造物や、水墨画などについて調べ、今に伝わる室町文化が生まれたことをとらえることができる。	
2学期	7月	4 天下統一と江戸幕府	1	「長篠の戦い」の絵図を手がかりに、武士の対立から天下を統一した人物に関心をもち、学習課題をつかむとともに、学習計画を立てることができる。	(1) オ	
		(1) 信長・秀吉・家康と天下統一	3	3人の武将の人物を調べることで、信長が短い期間に領土を拡大したこと、秀吉が検地や刀狩を通して、戦国の世を統一したこと、秀吉の死後、家康に天下が移っていくことをとらえることができる。		
		(2) 江戸幕府による政治	4	徳川家光の人物調べから、参勤交代、武家諸法度、鎖国政策などにより、幕府の支配の仕組みが固められたことをとらえることができる。		
	9月	5 江戸時代を生きた人々	1	江戸の町の絵図を手がかりに、この時代の人々のくらしに関心をもち、学習課題をつかむとともに、学習計画を立てることができる。	(1) オ	
		(1) 身分と人々のくらし	3	それぞれの身分とくらしを調べることで、支配者である武士を中心とした身分制度のもとで、人々がくらしの向上をめざしていたことをとらえることができる。	カ	
		(2) 町人文化と新しい学問	4	近松門左衛門の人物調べから、町人文化が栄えたこと、本居宣長や杉田玄白の人物調べから、国学・蘭学という新しい学問が盛んになったことをとらえることができる。		
9月	6 明治維新から世界のなかの日本へ	1	黒船来航の絵図を手がかりに、外国との関係や国内の動きに関心をもち、学習課題をつかむとともに、学習計画を立てることができる。	(1) キ		
	(1) 黒船の来航	2	黒船来航を調べ、来航をきっかけに日本が開国したこと、また、その後、幕府への不満が高まり、天皇中心の国づくりをめざす運動によって幕府が倒れていったことをとらえることができる。	ク		

2学期制	3学期制	月	単元	配当時間	めあて	指導要領	
後期	2学期	10月	(2) 新政府による政治	4	新政府で中心となった人物を調べることで、新しい政府が廃藩置県や四民平等などの改革を進め、欧米の文化や制度を取り入れながら近代化を進めたことや、板垣退助・伊藤博文の人物調べから、日本が立憲政治を確立したことをとらえることができる。		
			(3) 条約改正と中国・ロシアとの戦い	4	明治政府の外国との関係について調べ、日本の近代化への努力で不平等条約が改正されたこと、また、日清・日露の戦争や韓国併合によって、中国や朝鮮半島の人々に大きな損害を与えたことをとらえることができる。		
			(4) 産業の発達と人々のくらしの変化	3	国内産業の発達の様子について調べ、産業の発達とともに働く人や公害の問題が起きたことをとらえることができる。 また、野口英世の働きなどについて調べ、科学の発展にともない、国際社会で活躍した人がいたことをとらえることができる。		
		11月	7 アジア・太平洋に広がる戦争	1	二つの地図を比べることで、戦争へとつき進んでいった当時の日本の様子について関心をもち、学習課題をつかむとともに、学習計画を立てることができる。	(1) ケ	
			(1) 戦争への道	2	1930年代の世界と国内の様子を調べ、戦争への道を歩んだ経緯や戦場の広がりとともに、戦争によってアジア・太平洋地域の人々に大きな被害を与えたことをとらえることができる。		
			(2) 戦争と人々のくらし	5	戦争体験者からの聞き取り活動を通して、戦争中の国民の生活の変化や、戦争が国民の生活に大きな影響を与えたことをとらえることができる。		
	3学期	12月	8 新しい日本へのあゆみ	1	敗戦直後と現在の大阪の空中写真を手がかりに、戦後の人々のくらしや社会の仕組みの変化に関心をもち、学習課題をつかむとともに、学習計画を立てることができる。	(1) ケ	
			(1) 新しい日本への出発	3	敗戦直後の学校や買出し風景の写真を手がかりに、当時の厳しい生活の様子や戦後の改革から、連合国軍の指令のもとに日本政府が改革を進めていった経緯や日本国憲法と独立の過程、日本が民主的な国家として再出発したことをとらえることができる。		
			(2) 平和で豊かな国をめざして	4	日本が独立したところからの社会の動きや人々のくらしについて調べ、国民生活が豊かになったことや、国際社会のなかで重要な役割を果たしていることをとらえることができる。		
		1月	下巻				
			2 わたしたちのくらしと政治 (全17時間)	1	人々の生活の写真から、人々の願いが政治の動きと結びつきがあることに気づき、学習課題をつかむとともに、学習計画を立てることができる。	(2) ア	
			1 わたしたちの願いと政治のはたらき	10	民生委員の働きや、高齢者のための施設を調べることで、人々の願いを実現していく地方公共団体や国の政治の働きや、それを支える税金の役割をとらえることができる。	イ	
2月	2 わたしたちのくらしと憲法	6	日本国憲法の基本的な考え方を調べることで、それが国のきまりや政治の動きの柱になっていることをとらえることができる。				
	●バリアフリー社会をめざして	—					
	3 世界のなかの日本とわたしたち (全16時間)	1	外国人との交流やパラリンピックの写真を手がかりに、世界の人々のくらしやわたしたちの役割に関心をもち、学習課題をつかむとともに、学習計画を立てることができる。	(3) ア			
3月	1 日本とつながりの深い国々	6	我が国と経済や文化の面などでつながりの深い国の人々の生活の様子を調べることで、外国の人々と共に生きていくためには、異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であることをとらえることができる。	イ			
	●海外旅行の計画をつくってみよう	—					
	2 国際連合と日本人の役割	9	国際連合の働きについて調べ、日本もその重要な一員として国際平和の実現に努力していること、国際連合が地球環境問題にも取り組んでいることをとらえることができる。 日本の国際交流や協力について調べ、その意義や活動の姿をとらえるとともに、国際社会の平和と発展のために、今後果たさなければならない責任や義務について考えることができる。				
			●エコプランを考えよう	—			